

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年3月22日

報告者	学科名	現代福祉学科	職名	准教授	氏名	口村 淳
研究課題	高齢者ショートステイの「稼働率管理」が施設ソーシャルワークに及ぼす影響：生活相談員の予約受付業務に着目して					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	口村 淳	現代福祉学科・准教授	社会福祉	調査・分析・発表	
研究組織	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究の目的は、高齢者ショートステイ（短期入所生活介護）の「稼働率管理」が施設ソーシャルワーク業務に与える影響について調査・検討することである。</p> <p>本研究における課題は次の2つである。</p> <p>① ショートステイにおける「稼働率管理」の実態を把握する。</p> <p>② 「稼働率管理」に関する業務とソーシャルワークに関する業務の関係性を明らかにする。</p> <p>研究課題①について、岡山県内にある短期入所生活介護事業所全 239 ヲ所に勤務する生活相談員を対象にアンケート調査を実施した。調査期間は2022年7月～8月。その結果、121名より返信が得られた（有効回答率50.6%）。回収された内容を単純集計およびクロス集計にて分析した。また自由記述に関しては、質的記述的分析を行った。</p> <p>研究結果を次に示す。</p> <p>①直近3カ月間の平均稼働率は「74%以下」が最も多く、7割近くの事業所に稼働率の目標値（ノルマ）があることがわかった。目標値は「90～94%」に設定している事業所が最も多かった。</p> <p>②直近3カ月間の平均稼働率の「90～100%」をみると、定員10床以下の事業所が11床以上の事業所の割合に比べ2倍近く高かった。</p> <p>③生活相談員の9割が予約受付の時点で稼働率の維持・向上を意識しており、その対策として9割近くの生活相談員がケアマネジャーに空き状況の発信を行っていた。</p> <p>④生活相談員の6割以上が稼働率管理の業務を負担に感じており、その要因は「現場スタッフと管理者の板挟みになる」が最も多かった。</p> <p>⑤生活相談員の悩み（困りごと）の構造として、ショートステイの【受入れ・調整】と事業所での【サービス提供】が相互に関連しており、それらは【業務管理】と不可分の関係にあることがわかった。</p> <p>⑥生活相談員が行う予約業務には、ソーシャルワークと稼働率管理の両方の側面がある特徴を見出すことができた。</p> <p>⑦予約業務の課題として、生活相談員が稼働率管理に固執するあまり、多職種との板挟みの状態に陥る可能性をあげることができる。</p> <p>上記の研究成果を学会誌『社会福祉学』（査読付き）に投稿するため、現在論文を執筆中である。なお調査協力者の中でアンケートの集計結果を希望する人に対しては、別添の報告書を送付した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>研究課題②について、岡山県内にある短期入所生活介護事業所の中から調査協力が得られた生活相談員（21名）にインタビュー調査を行った。インタビュー内容を逐語録にするところまで完了している。今後は、逐語録を定性的コーディングにより分析を行う予定である。研究課題②の成果についても、学会誌『社会福祉学』に投稿することを目指している。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>調査の集計結果報告（調査協力者へ送付済）</p>